



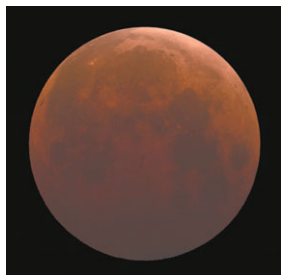
## 2015年注目の天文現象



明けましておめでとうございます。私、「地球」です。皆様が、その科学的知見により極めて正確に予報された天文現象について、本年も私より紹介させていただきます。

昨年は、突然の火山の噴火などが起こりましたが、私という星の科学について、まだまだ知らないことが多いと実感されたのではないのでしょうか。一方、自然の法則に従っている私にとって、皆様の行いの中で予測不能だったこと、理解しがたいことがいくつもありました。私も、人類という生命は、一筋縄ではとらえられない不可思議な生命であると実感した次第です。とにかく今年も皆様と一緒に太陽の周りを一回りします。どうぞよろしく。

### ★日食と月食★



皆既月食(2014年10月8日)

昨年10月8日の皆既月食は天候に恵まれ、多くの方が赤くぼんやりと光る月をご覧になったと思います。さて、昨年に続き今年最大の天文現象も皆既月食です。

### 皆既月食(4月4日)

昨年は、皆既食が1時間ほど続きましたが、今回は12分ほどです。これは、私、地球が作る影の端の方をかすめるように月が横切るため、かなり欠けてからも、なかなか皆既食になりません。いずれにして

も、昨年同様、夜のはじめに部分食が始まり、皆既食が午後9時ごろですので、お勧めです。次は2018年まで見られませんのでお見逃しなく。

なお、3月20日に北大西洋などで皆既日食、9月13日にアフリカ南部などで部分日食が見られますが、日本では日食は見られません。

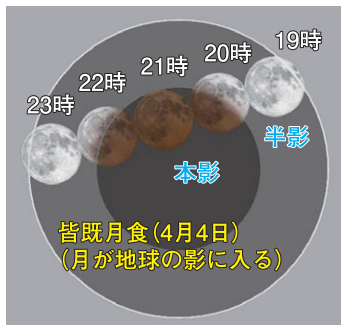
### 4月4日の皆既月食

部分食の始まり	19:15
皆既食の始まり	20:54
食の最大	21:00 (食分1.01)
皆既食の終わり	21:06
部分食の終わり	22:45

### ★惑星どうしの大接近★

#### 【金星と木星の大接近】

太陽、月に次いで明るい金星と木星が接近すると見事です！昨年も起こりましたが、今年は、条件がずっと良く、また、2回も起こります。







**水星:** 太陽のまわりをわずか88日で回り、夕方と明け方の空を忙しく行き来するので、皆様が伝令の神にちなんで「マーキュリー」と名付けたのもうなづけます。夕方(西の空)は1月15日、5月7日、9月4日、12月29日の東方最大離角の前後、明け方(東の空)は2月25日、6月25日、10月16日の西方最大離角の前後が観察の好期で、特に5月上旬は高度が高く、また、1月10日前後は近くに金星が輝きよい目印となります。

**金星:** 年初は夕方の西空に「よいの明星」として輝いています。7月10日、9月22日には最大光度(-4.5等)となり、この頃には昼間に肉眼で見ることすら不可能ではありません。8月14日に地球を追い抜いて明け方の空へ。以後「明けの明星」になります。

**火星:** 昨年4月14日に2年ぶりに接近しました。次の接近は来年の5月31日で今年は観察には適しません。しかし2月22日と11月3日に金星と、10月18日に木星と接近し、この時は、親、ならぬ「兄弟の七光り」で目立っています。

**木星:** 2月7日が衝。しし座→かに座→しし座。8月27日が合でその前後は観察に向きません。ガリレオ衛星同士が、相互に隠す「掩蔽」や一方の影に入る「食」が8月まで何回も起こります。これは6年に一度のチャンスです。

※衝: 惑星などが太陽と正反対の方向にくることで、観察の好期。

反対に、太陽と同じ方向にくることは「合」という。

**土星:** てんびん座とさそり座の境界付近。5月23日に衝。11月30日が合でその前後は観察に向きません。環はかなり開いて見えるので、よく観察できます。

**天王星、海王星:** 昨年と同じく、天王星はうお座、海王星はみずがめ座にいます。それぞれ、公転周期が84年、165年と大変長く、年がかわっても同じ星座にいても多いのです。

(番外編:準惑星)冥王星: 地球からあまりに遠いため、冥界の神にちなんでつけられた名前からくるイメージ通り、今でも多くが謎のままです。しかし、9年余りの旅の末、7月に探査機「ニューホライズンズ」が冥王星をフライバイし、私たちにその素顔を見せてくれることになっています。

## ★終わりに★

ひょっとすると、大彗星や明るい超新星の出現、隕石の落下等の予期せぬ事が起こるかもしれません。それが、皆様の「知」の世界を広げるきっかけとなるかも?どうぞ、研究の準備は怠りなく! なにはともあれ...

皆様にとって本年が輝かしいよき一年でありますようお祈りいたします

※月食予報図・星図はステラナビゲータで作画しています。

文: 惑星・地球 【取材: 藤原 正人(科学館学芸員補助スタッフ)】